

No.8-3

【エッセイ】「自分を表現する」

高校生になって初めての實習。不安や緊張、それとは反対に利用者様と接する楽しみな気持ち。様々な感情が私の心に渦巻き、頭が真っ白になりながらも始まった。事前の学習や實習の目標を立てていく中で、自分から積極的にコミュニケーションを図ることが大切なのだということはわかっていた。しかし、いざ実際に利用者様を目の前にすると、どう接したら良いのかわからず、戸惑ってしまった。そんな時、施設の方からのお話にあった「オアシス運動」を思い出した。オアシスのオはおはよう、アはありがとう、シは失礼します、スはすみませんを意味していて、どの言葉もシンプルで当たり前のことのようにだが、それが人と接するうえでの基本となり、大切なことなのだと教わった。利用者様の側に寄り、「おはようございます。よろしくお願ひします。」と挨拶をすると、ほほえんでお辞儀をし、「よろしくお願ひします。」と応えてくださった。私はその利用者様の笑顔を見て、とても嬉しくなった。それと同時に、相手と言葉を交わすことが信頼関係を築くための一歩となるのだと感じた。

施設の雰囲気にも慣れた二日目は、発語のない方とお話しさせていただく機会があった。その利用者様は「マカトン」と呼ばれる手話のようなもので話し掛けてくださった。しかし、利用者様の伝えようとしていることが私に伝わらなかったり、私の意見や気持ちを上手く伝えることができなかったりと苦勞する瞬間がたくさんあった。その時、施設の方が「自分の気持ちが伝わらないとパニックになってしまう方もいるから、時々相手の方にも質問をしてみると良いよ。」とアドバイスをしてくださった。それを聞いて私も言葉を声に出すだけでなく、手の動きや表情の変化も大きくして利用者様に質問を試みた。すると、それまでの不安そうな表情が消え、生き生きとお話をしてくださるようになった。

今回の實習では、たとえ体が不自由な方でも自分の意志や主張したいことなどの個性があり、それを相手に表現するための手段は決して言葉を声に出すことだけではないのだと学ぶことができた。實習の時はもちろん、普段の生活でも一人一人の感情表現を大切にしていくなかで、「自分」という存在も私なりの方法で表現できるようになりたい。